

授業改善プラン

地域名	葛南教育事務所	学校名	八千代市立南高津小学校
-----	---------	-----	-------------

1. 課題（全国学力・学習状況調査結果から）

- 国語及び算数は、共に全国平均より10ポイント近く下回っている状況が続いている。特に、小数同士の除法に苦手意識を持っている児童が多い。
- 傾向としては、問題文の意味がわかっていないという児童や、わかっていてもそれを表現する力に欠けている児童が多い。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

具体物や半具体物、図、絵、表、数直線などを使って問題文を理解させる活動を行えば、立式できたり、式の意味を読み取ることができたりするであろう。問題文を理解させるために一文ずつ区切って提示したり、素材提示や比較検討等の場面で、ICT機器を活用し、視覚的に問題内容を理解できるように工夫したり、自力解決で児童がノートなどに表現したことを友達同士で共有したりすることで、主体的に問題解決に取り組む姿を目指すこととした。

3. 具体的な実践

○4年生「何倍でしょう」【別添資料1】

本時に入る前：第3学年の学習の復習を取り入れた。

導入：テレビ塔・デパート・学校の挿絵を作り、それぞれがどのような関係になっているのか、視覚的にわかりやすくした。テープ図を活用し、具体物から図へと変換していった。

自力解決：紙テープをテレビ塔・デパート・学校の大きさに切り、操作をしながら自力解決をしていた。

比較検討：小グループでの話し合いや、ICT機器を活用することで、全体での共有を深めた。

○5年生「割合」【別添資料2】

導入：問題文を区切って提示した。公園・広場・芝生の量感を掴むために、図にかいた。また、具体物を用意し、重ねられるように画用紙や透明シートを活用した。

自力解決：関係図を活用し、そこから立式ができるようにした。

○職員研修

夏に職員研修の一環で、学力向上についての研修を行った。職員間の意識改革や、誤答分析をすることで児童がどこで躓いているのかを把握する必要性、そして系統性をもって指導することの大切さを「授業改善」という視点から学んだ。

4. 成果

- 素材文を分けて提示したことで、素材文の意味理解に繋がったと考える。その際、具体物を掲示したり、イメージ図をかかせたりすることも有効であった。
- 視覚的にわかりやすいものや、手で簡単に操作できるものを用意することで、児童が主体的に考え、ノートに表現したり、小グループ等で発表したりすることができた。

◆担当指導主事から（葛南教育事務所 指導主事 川口 齊之）

全国学力・学習状況調査の結果から、問題文の場面理解の支援と、読み取った情報を図を使って整理する力の育成を図る授業改善を行った。課題を全校で共通理解したり、効果的な手法を各学年で取り入れたりできるように、少人数指導教員が各学年・学級を結び付ける架け橋になった。「チーム学校」で授業改善できる合理的かつ有効な方法だった。